



大震災津波からの教育の復興に向けて ～県中学校長の取組と学校は「今」～

岩手県中学校長会総会において、佐藤精晋副会長（厨川中）より、東日本大震災津波から7年が経過した今、この間の県中学校長会の取組を振り返り、沿岸地方の中学校の「今」についての報告がありました。



1 横軸連携スタート・記録集（第1・2集）発刊

発災から1年が経過した平成24年3月、県中学校長会では、大震災津波直後の状況や横軸連携、姉妹校連携の取組をまとめ、「明日を見て前を向いて」と題して編集しました。また、3年が経過した平成26年3月に各学校や校長会の取組、生徒たちの活動の様子をまとめた第2集「未来への一歩を共に」を発刊しました。



2 いわて震災復興パネル展

昨年6月、花巻市で開催された第67回東北地区中学校長会研究協議会・岩手大会で、「震災を忘れない、風化させない」という思いを込め、被災した沿岸地区の中学校の状況をパネルで展示しました。研究協議会に参加した他県の校長先生方に復興の様子を伝えることができました。



3 全日中役員被災地訪問

これまでも全日本中学校長会からは、義援金を始め和太鼓の寄贈など、多大な支援をいただいています。平成29年8月、全日本中学校長会直田会長と役員3名が来県し、宮古地区の被災校3校を訪問しました。田老地区では防潮堤から被災地の現状を見学しました。



4 学校は「今」

発災から7年が経過した宮古地区・釜石地区・気仙地区の学校の「今」の様子が紹介されました。

(1) 熊本地震への支援活動



(2) 新校舎での入学式



(3) 校庭での運動会



(4) 校庭に残る仮説住宅



終わりに、時間の経過とともに被災各校の状況の多様化や、意識の風化が懸念されています。

これまでの取組で培われた横軸連携・姉妹校連携の精神を大切に、県中学校長会160名の会員が一丸となって「学びの場」の復興に取り組んでいく必要があります。

今後も、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げ、話題提供といたします。